

第3章 新・京都SKY大学に対する評価

第3章ではSKY大学の受講に関して、まず、SKY大学の受講にいたった過程についての問として、知るきっかけ、受講コース、関心のある領域、受講の動機・目的を整理する。ついで、実際にSKY大学を受講した結果について、コース別の満足度、受講して得られた成果、新たにできた人間関係をまとめ、最後に地域活動とつながりやすいとされた講座を明らかにする。

第1節 新・京都SKY大学の受講(問13～18)

SKY大学を知るきっかけ

SKY大学を知るきっかけとしては、「友人・知人」を通じてがもっとも多く(45.2%)、ついで、「行政広報」(35.3%)、「センター広報物」(22.0%)が続く。「新聞・ラジオ等」のマスメディア(6.5%)やインターネットの「ホームページ」(4.6%)を通して知るようになった人は少ない。マスメディアや今後利用者増が見込めるインターネットのホームページの活用に関しては、改善の余地が大きいことがうかがえる。(表 3-1)

表3-1 SKY大学を知るきっかけ

	友人・知人	家族	行政広報	センター 広報物	新聞・ ラジオ等	ホーム ページ	その他	合計
性別								
男	114	23	94	61	15	14	5	264
%	44	9	36	23	6	5	2	-
女	74	24	53	32	12	5	9	157
%	47	15	34	20	8	3	6	-
年齢 区分								
～64	11	4	12	13	2	3	1	38
%	29	11	32	34	5	8	3	-
65～69	50	14	30	19	5	6	2	105
%	49	13	29	18	5	6	2	-
70～74	55	16	55	35	13	1	7	139
%	40	12	40	25	9	1	5	-
75～79	47	10	35	20	4	6	3	99
%	47	10	36	20	4	6	3	-
80～	24	3	14	6	3	3	1	39
%	62	8	36	15	8	8	3	-
居住地								
京都市内	126	34	95	53	18	12	12	280
%	45	12	34	19	6	4	4	-
市外(南部)	35	7	28	25	4	4	2	83
%	42	8	34	30	5	5	2	-
市外(北部)	27	5	24	14	4	3	0	54
%	50	9	44	26	7	6	0	-
京都府外	0	0	0	0	1	0	0	1
%	0	0	0	0	100	0	0	-
合計	188	46	147	92	27	19	14	419
%	45	11	35	22	6	5	3	-

受講したコース

今回とりあげた7つのコースでは、「文学歴史」(58.5%)と「総合活動A」(51.1%)が5割を超える人に受講されており、「京都見聞」(33.4%)、「スポーツ・レクリエーション」(25.4%)がそれに続いている。(表 3-2)

表 3-2 受講コース

	総合活動A	スポレク	文学歴史	資格取得 準備	総合活動B	京都見聞	工芸体験	合計
性 別								
男	154	74	163	6	26	92	21	264
%	59	28	62	2	10	35	8	-
女	61	33	84	6	24	49	21	157
%	39	21	54	4	15	31	13	-
年 齢 区 分								
~64	15	7	14	7	6	13	6	38
%	39	18	37	18	16	34	16	-
65~69	66	25	74	2	3	36	9	105
%	63	24	70	2	3	34	9	-
70~74	68	44	76	2	15	52	17	139
%	49	32	55	1	11	37	12	-
75~79	49	25	65	1	17	35	9	99
%	49	25	66	1	17	35	9	-
80~	16	5	17	0	9	4	1	39
%	41	13	44	0	23	10	3	-
居 住 地								
京都市内	153	76	187	8	9	109	27	281
%	54	27	67	3	3	39	10	-
市外(南部)	56	29	54	3	2	31	13	83
%	68	35	65	4	2	37	16	-
市外(北部)	5	1	4	0	38	1	2	54
%	9	2	7	0	70	2	4	-
京都府外	0	0	0	1	0	0	0	1
%	0	0	0	100	0	0	0	-
合 計	215	107	247	12	50	141	42	421
%	51	25	59	3	12	33	10	-

SKY大学に関するテーマで関心のある領域

・教養・趣味など

教養・趣味に関するテーマの中では、「歴史」に関する関心が78.0%ともっとも高く、5割をこえるものとしては、他に「健康」(54.5%)、「文学」(52.4%)、「時事問題」(52.1%)が続く。受講コースとして「文学歴史」がもっとも選ばれていたこととも整合する結果である。(表 3-3)

・社会活動

社会活動領域の関心では、「高齢者福祉」が49.4%ともっとも高く、「環境保全」(40.8%)、「安全・安心」(32.7%)、「まちづくり」(29.8%)と続いている。性別による違いが認められ、「まちづくり」と「環境保全」への関心が男性で高いのに対して、女性は「子育て支援」や「障害者福祉」で男性より関心をもつ割合が高く、直接、人を援助する活動への関心が高い傾向にある。男性は「まちづくり」や「環境保全」のような仕組み・システムを作りあげる活動への関心が高いようだ(表 3-4)。

表 3-3 関心のある領域(趣味・教養)

		歴史	文学	自然・環境	教育・福祉	健康	時事問題
性別	男	214	127	125	60	137	148
	%	81	48	47	23	52	56
性別	女	115	94	80	61	93	72
	%	73	60	51	39	59	46
年齢区分	～64	27	13	18	9	19	13
	%	71	34	47	24	50	34
	65～69	85	61	54	30	49	54
	%	81	58	51	29	47	51
	70～74	102	74	71	42	84	69
	%	73	53	51	30	60	50
	75～79	83	56	46	27	56	59
	%	84	57	46	27	57	60
	80～	30	17	15	13	21	24
	%	77	44	38	33	54	62
居住地	京都市内	222	155	132	73	151	146
	%	79	55	47	26	54	52
	市外(南部)	63	39	44	24	40	39
	%	76	47	53	29	48	47
	市外(北部)	40	27	28	24	37	34
%	74	50	52	44	69	63	
合計	京都府外	1	0	0	0	1	0
	%	100	0	0	0	100	0
合計		329	221	205	121	230	220
	%	78	52	49	29	55	52

		国際問題	人権問題	産業・経済	文化・芸術・工芸	スポーツ	その他	合計
性別	男	103	29	102	90	81	0	264
	%	39	11	39	34	31	0	-
性別	女	42	19	29	75	34	4	157
	%	27	12	18	48	22	3	-
年齢区分	～64	9	5	7	17	13	0	38
	%	24	13	18	45	34	0	-
	65～69	36	11	34	47	24	3	105
	%	34	10	32	45	23	3	-
	70～74	48	13	53	52	48	1	139
	%	35	9	38	37	35	1	-
	75～79	39	10	28	35	21	0	99
	%	39	10	28	35	21	0	-
	80～	13	9	9	12	9	0	39
	%	33	23	23	31	23	0	-
居住地	京都市内	88	30	82	101	75	4	281
	%	31	11	29	36	27	1	-
	市外(南部)	27	9	30	37	27	0	83
	%	33	11	36	45	33	0	-
	市外(北部)	30	9	19	27	12	0	54
%	56	17	35	50	22	0	-	
合計	京都府外	0	0	0	0	0	0	1
	%	0	0	0	0	0	0	-
合計		145	48	131	165	115	4	422
	%	34	11	31	39	27	1	-

表 3-4 関心のある領域(社会活動)

		まちづくり	高齢者福祉	子育て支援	障害者福祉	環境保全	安心・安全	国際交流	その他	合計
性別	男	95	123	19	25	122	91	30	19	264
	%	36	47	7	9	46	34	11	7	-
性別	女	31	85	24	25	49	47	30	7	157
	%	20	54	15	16	31	30	19	4	-
年齢区分	～64	11	14	6	10	13	10	5	2	38
	%	29	37	16	26	34	26	13	5	-
	65～69	42	47	13	14	49	35	18	7	105
	%	40	45	12	13	47	33	17	7	-
	70～74	34	69	12	14	56	50	21	9	139
	%	24	50	9	10	40	36	15	6	-
	75～79	30	55	10	9	43	35	10	7	99
	%	30	56	10	9	43	35	10	7	-
居住地	80～	8	22	2	3	9	7	6	1	39
	%	21	56	5	8	23	18	15	3	-
	京都市内	73	134	30	28	106	93	40	15	281
	%	26	48	11	10	38	33	14	5	-
	市外(南部)	32	41	3	9	41	28	8	7	83
%	39	49	4	11	49	34	10	8	-	
市外(北部)	20	31	10	12	24	16	12	4	54	
%	37	57	19	22	44	30	22	7	-	
京都府外	0	1	0	1	0	0	0	0	1	
%	0	100	0	100	0	0	0	0	-	
合計	125	207	43	50	171	137	60	26	419	
%	30	49	10	12	41	33	14	6	-	

受講動機

受講動機としては「内容への興味」が 79.4%と図抜けて高く、「知り合いの誘い」(27.5%)、「講師への関心」(23.9%)が続く。「講師への関心」も内容に関連すると考えると、受講生は講座の内容をしっかりと意識して受講を決めていることがわかる。「自分の仕事や地域での活動への関連」を受講動機にあげる人は少ない。(10.4%)

図 3-1 受講動機(男女別)

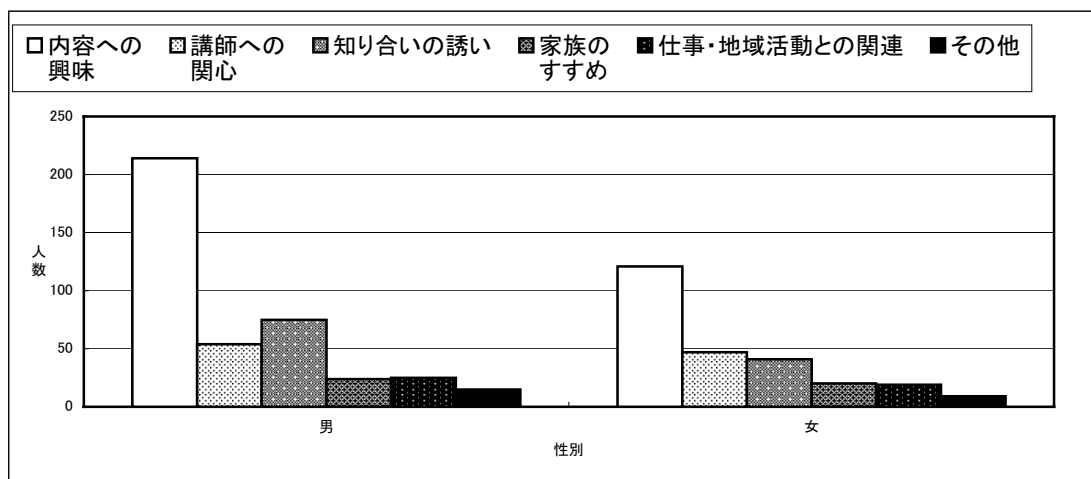
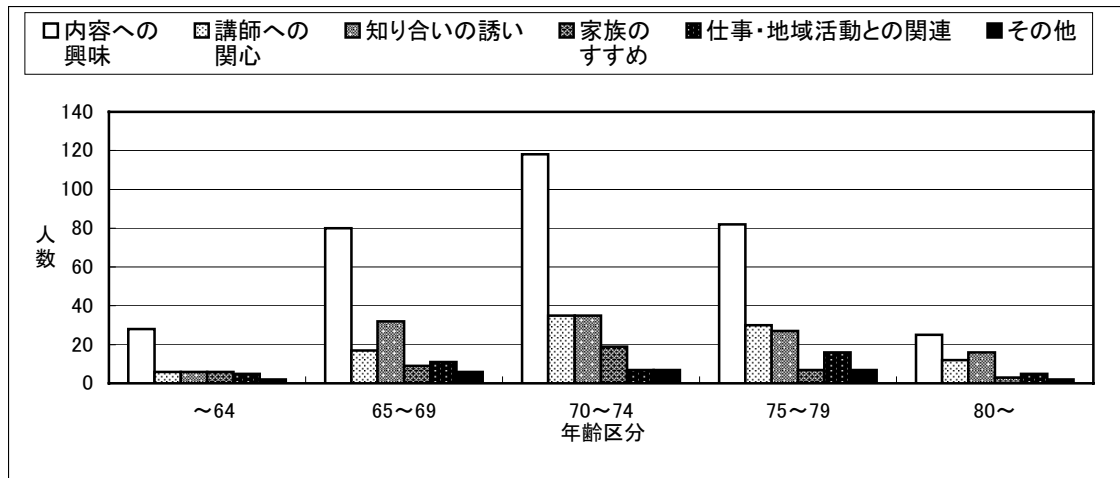


図 3-2 受講動機(年齢別)



受講目的

受講の目的としては、「自分自身の興味・関心を満たすため」がもっとも多く(84.8%)、ついで「日々の生活の楽しみ・生きがいづくり」(73.5%)、「交友関係を広げるため」(42.4%)と続いている。「地域やボランティア活動に活かす」ことを受講目的にあげた人は 17.1%であった。

図 3-3 受講目的(男女別)

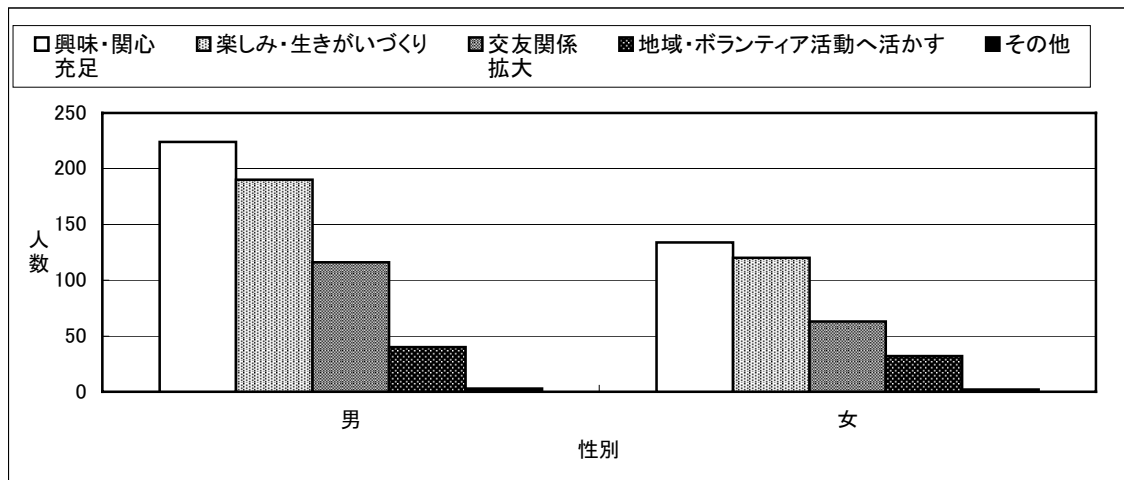
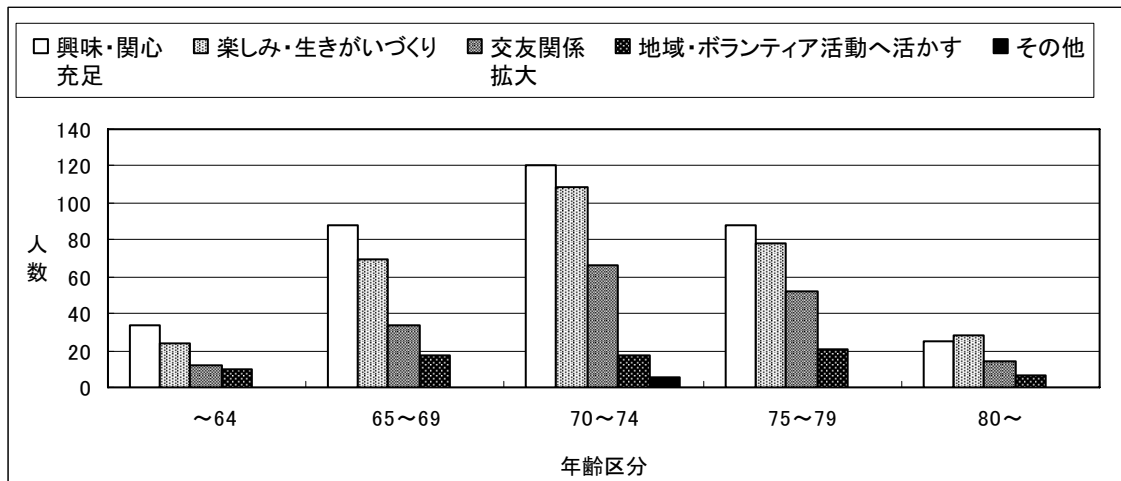


図 3-4 受講目的(年齢別)



第2節 新・京都SKY大学の受講から得られた成果(問19~21)

受講講座への満足度

SKY大学で受講した講座への満足度についての回答を整理する(表 3-5)。表中の数字はそれぞれの受講した講座への満足度の平均点(満足:5、やや満足:4、どちらともいえない:3、やや不満:2、不満:1)である。講座への受講人数に大小の開きがあるので、人数が少ない講座への満足度は信頼性が低いことに留意する必要がある。回答数が全体で50人以下の講座は「資格取得準備」(22人)・「工芸体験」(39人)・「総合講座B」(42人)である。

もっとも満足度の高い講座は「京都見聞」(全体平均:4.59)であり、「工芸体験」(4.21)、「文学歴史活動」(4.11)がそれに続く。市外北部が対象の「総合活動B」(4.10)は市内中心の「総合活動A」(3.92)より満足度が高くなっているが、これは市内の方が比較対象となる選択肢が豊富である事情を反映していると考えられる。男女を問わず満足度がもっとも低い講座は「資格取得準備」であった。「共通教養講座」も満足度は低く、受講者が多い講座としてなんらかの対処の必要性が認められる。また、体を使う「スポーツ・レクリエーション活動(スポ・レク活動)」は年齢が高くなっても満足度は低くない。

受講から得られた成果

受講から得られた成果として、問19の7つの選択肢の中では、「自分自身の興味・関心の満足」がもっとも選択率が高く(75.8%)、「日々の生活の楽しみ・生きがいづくりができた」の選択率(63.5%)がそれに続く。「地域・ボランティア活動に活かせる知識習得」(21.6%)や「学んだ知識の活用意欲」(13.3%)はこれらの選択肢の中では選択率は低い。受講動機や受講目的でも、「内容への興味」や「楽しみ・生きがいづくり」を選んだ人が多く、地域活動やボランティア活動への意識をもっている人が10%~20%程度の範囲にあったことを考えると、それに対応した納得で

表 3-5 受講講座への満足度

	共通教養講座	総合活動A	スポ・レク活動	文学歴史活動	資格取得準備	総合活動B	京都見聞	工芸体験
性別 男	3.66	3.84	3.90	4.01	3.75	4.28	4.56	3.90
性別 女	3.88	4.12	4.03	4.32	3.60	3.82	4.65	4.53
年齢区分 ~64	3.83	3.85	4.43	4.00	3.50	3.67	4.45	4.00
65~69	3.49	3.84	3.68	4.01	4.33	4.00	4.74	4.80
70~74	3.64	3.82	3.88	4.00	3.75	4.00	4.57	3.93
75~79	3.92	4.04	4.15	4.32	3.67	4.14	4.51	4.25
80~	4.11	4.29	4.00	4.38		4.57	4.57	3.50
居住地 京都市内	3.64	3.90	4.00	4.09	3.82	3.88	4.62	4.04
市外(南部)	3.79	3.90	3.81	4.07	2.75	4.00	4.58	4.46
市外(北部)	4.40	4.38	3.25	4.42	4.00	4.23	4.25	4.50
京都府外	4.00				4.00			
計	3.73	3.92	3.94	4.11	3.68	4.10	4.59	4.21

表 3-6 受講から得られた成果

	興味・関心満足	楽しみ・生きがいづくり	地域活動に活かせる知識習得	さらに深い勉強意欲	広い分野への学習意欲	学んだ知識の活用意欲	その他	合計
性別 男	207	169	59	91	72	37	8	264
性別 %	78	64	22	34	27	14	3	-
性別 女	112	103	32	58	54	19	4	157
性別 %	71	66	20	37	34	12	3	-
年齢区分 ~64	26	16	8	11	7	3	1	38
年齢区分 %	68	42	21	29	18	8	3	-
65~69	75	58	25	39	29	13	3	105
年齢区分 %	71	55	24	37	28	12	3	-
70~74	110	102	27	50	43	16	4	139
年齢区分 %	79	73	19	36	31	12	3	-
75~79	77	70	23	43	38	16	2	99
年齢区分 %	78	71	23	43	38	16	2	-
80~	31	25	8	6	9	8	2	39
年齢区分 %	79	64	21	15	23	21	5	-
居住地 京都市内	214	185	52	105	88	33	8	281
居住地 %	76	66	19	37	31	12	3	-
市外(南部)	62	51	21	23	18	10	3	83
居住地 %	75	61	25	28	22	12	4	-
市外(北部)	42	35	17	19	19	13	1	54
居住地 %	78	65	31	35	35	24	2	-
京都府外	1	0	1	0	0	0	0	1
居住地 %	100	0	100	0	0	0	0	-
合計	320	272	91	149	126	56	12	422
合計 %	76	64	22	35	30	13	3	-

きる結果といえる。(表 3-6)

新たにできた人とのつながり

新たにできた人とのつながりでは、「新しい友人」がもっとも多く(61.6%)、「グループや組織とのつながり」(32.5%)、「とくにつながりできず」(28.4%)が続く。「新しい友人」ができた割合は男性よりも女性の方が高く(男性:58.3%, 女性:67.5%)、その逆に「とくにつながりができず」という回答は女性よりも男性の比率が高い(男性:31.4%, 女性:22.9%)。日常生活への満足と同様、女性の方が男性よりも人間関係の形成を得意とする面が現れているようである。しかし、男性も

「グループや組織とのつながり」や「社会に役立つ人間関係」では女性より低いということはない。目的合理的な人間関係の形成という点ではそれほど差が無いということであろう。(図 3-5, 図 3-6)

図 3-5 新たにできた人とのつながり(男女別)

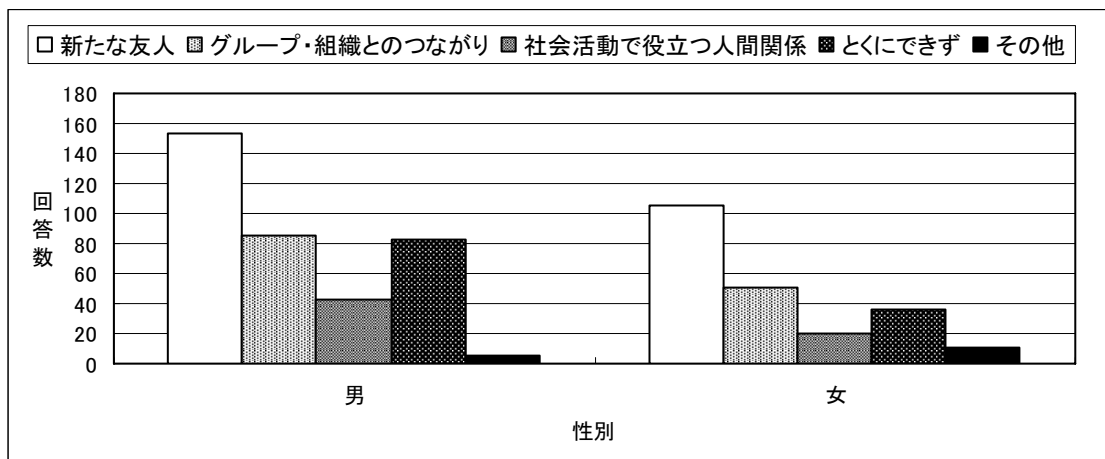
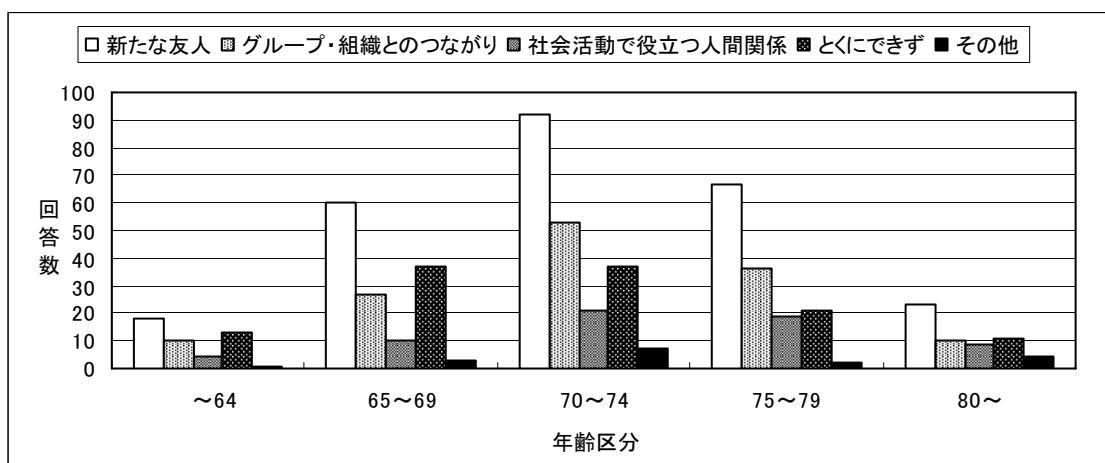


図 3-6 新たにできた人とのつながり(年齢別)



地域社会での活動につながるやすい講座

SKY大学を受講して、とくに地域活動につながるやすいと感じられた講座をたずねた結果を整理する。全体で見ると、「高齢者福祉」(60.4%)・「まちづくり」(43.8%)・「環境保全」(39.6%)・「安心・安全」(35.8%)を選んだ人が多かった。

性別による違いがあり、「まちづくり」「環境保全」「安心・安全」は、男性の方が選ぶ割合が高く、「高齢者福祉」は、女性の方が選ぶ割合が高い。女性は「子育て支援」や「障害者福祉」でも割合が比較的高く、福祉全般への関心の高さがうかがえる。それに対して男性は、「まちづく

り」や「環境保全」のような制度やシステムを作るのに役立つ講座を選択する傾向がみられる。
 (表 3-7)

表 3-7 地域社会での活動につながりやすい講座

		まちづくり	高齢者福祉	子育て支援	障害者福祉	環境保全	安心・安全	国際交流	その他	合計
性別	男	138	154	11	26	119	105	7	5	264
	%	52	58	4	10	45	40	3	2	-
	女	47	101	21	25	48	45	5	3	157
	%	30	64	13	16	31	29	3	2	-
年齢区分	～64	18	23	5	9	21	7	2	1	38
	%	47	61	13	24	55	18	5	3	-
	65～69	54	61	6	13	40	43	2	0	105
	%	51	58	6	12	38	41	2	0	-
	70～74	60	75	12	15	54	54	4	2	139
	%	43	54	9	11	39	39	3	1	-
	75～79	42	68	7	10	36	37	2	4	99
	%	42	69	7	10	36	37	2	4	-
	80～	10	27	2	4	15	10	2	1	39
	%	26	69	5	10	38	26	5	3	-
居住地	京都市内	110	161	22	32	108	110	7	3	281
	%	39	57	8	11	38	39	2	1	-
	市外(南部)	44	54	3	12	39	23	2	3	83
	%	53	65	4	14	47	28	2	4	-
	市外(北部)	29	36	7	7	19	17	3	2	54
	%	54	67	13	13	35	31	6	4	-
	京都府外	0	1	0	0	1	0	0	0	1
	%	0	100	0	0	100	0	0	0	-
合計		185	255	32	51	167	151	12	8	422
	%	44	60	8	12	40	36	3	2	-